

自分改革

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

英語の授業に対する姿勢が大幅に変わりました。今回の研修では今の自分の英語力でどの程度コミュニケーションが取れるかを知るため、それを一番の目的として台湾に向かいました。研修を通して、授業で習っている英語や自分の表現で、ある程度のコミュニケーションが成立しました。最初は緊張しましたがとても自信になりました。この経験によりもっとスムーズに意思疎通がしたいと思うようになり、更に深く英語を学びたいと感じるようになりました。これまでより明らかに英語の授業が楽しく興味深いものになりました。また、英語以外の言語にも興味が深まりました。

2 台湾に対する理解や印象について

台湾の方々は親日家が多く、我々日本人を歓迎して頂けると聞いてはいましたが、自分にとって海外は怖いものという印象はどこかでいつまでも拭えずにいました。しかし今回実際に訪れてみて、歓迎の盛大さにとても驚き、接する人々がとても温かく台湾という国が自分の海外への恐怖心を拭いさってくれました。自分の最初の異国が台湾で良かったなと思いました。

食事に関しては、料理に日本にはない香り、と言うか台湾特有の香りに結構苦戦しましたが、それも海外研修の面白いところだなと感じました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

台湾の学生たちが授業に対してとても意欲的であったことや、特に淡水の高校生たちが日本語でコミュニケーションを取ろうとしているところに感銘を受けました。自分が出会った学生は英語ではなく日本語を主に勉強していました。自ら学ぼうとする姿勢がとても強く、自分との違いを感じました。義務教育で英語を勉強する、英語は出来た方がいいのではないかと、という漠然とした自分の考えとは違い、台湾の学生達は大好きな日本の言語を学び 18 歳になったら絶対日本に行くと言う明確な目標を持っている学生もいました。そんな意欲的な姿勢が強く印象に残っています。

4 今の目標や今後の進路について

今回の研修で、異国の方々とコミュニケーションを取る楽しさを知り、その国の魅力を知りました。もっと色々な国へ行き、たくさんの人と交流をしたいと言う目標が出来ました。そのために、自分の好きな英語だけでなく、様々な言語で日常会話ができるように勉強したいと考えています。今後は語学や文化を学ぶことのできる大学へ進学し、目標を実現していきたいです。また自分の住んでいる日本、長野県の魅力も世界に伝えていきたいと思っています。日本と世界がもっと身近に交流できるような職業に就けたら素晴らしいと思います。

5 帰国後の活動

InstagramなどのSNSを活用し、今回の研修の活動内容を掲載しました。台湾の魅力や台湾の学生達と楽しく交流する事などを伝えることができたと思います。今後も自分の同級生や周りの人に海外研修の魅力を精一杯伝えたり、かつてお世話になった英会話教室、さらにはダンスのイベントなどでも、積極的に発信していきたいと思っています。また今回知り合った学生さん達との交流も続けていきたいと思っています。



この旅の No.1 交流



TAIPEI MAX

台湾で得られたもの

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

留学以前、私は台湾の人々がどうして過去に植民地支配された日本に対して好感を持ってくれているのだろうか疑問に思っていました。高校生にこの疑問を打ち明けると、確かに日本は過ちを犯したが、それと同時に日本は台湾の発展に寄与してくれたと台湾の人々は客観的に評価しているのだと教えてくれました。そこで私はひどいことをされても客観的な目を持ち続けられることに驚き、感謝をするとともに自分たちも見習わなくてはいけないと思いました。また、それと同時に私たち若い世代は自分たちの国が過去にどのような過ちを犯してきたのか学び、反省をするとともにこれからの関係を築いていく世代として共に考え学び交流を深めることがとても大切だと考えました。

2 台湾に対する理解や印象について

日本では「中国による圧力で台湾周辺が脅威に晒されており、台湾の人々は常に中国からの攻撃に備えて行動し不安な日々を送っている」ように思わせる報道が行われています。そのため私も台湾の人々は安心した生活ができているのだろうか心配に思っていました。しかし滞在中は中国の脅威を感じるなどなく、現地の高校生も中国のことなど誰も気にしていないと話しており、日本は当事者でもないのにことを荒立てすぎなのかな、と感じました。また、過去の歴史から台湾の人々は日本人のことを受け入れてくれるのか、非難されてもおかしくないと考えていましたが、そんなことは一切なく歓迎してくれて温かい人達なんだなと思いました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

高校生との交流では、日本語は日本文化や日本人の性格が好きで勉強しているから話せるけど英語は全然話せないという言葉聞く機会がありました。そこで私はとても衝撃を受けました。なぜなら、私は他言語を学ぶ目的はより多くの人と話せるようになるためと考えており、その目的のために最も効率の良い英語を学んでいるからです。他言語に対して習得するのが難しいと言われるのに日本でしか使えない日本語を学んでくれていることが本当に嬉しかったです。B&S では大学生同士も初対面だったのだと思うのですが、最初に he or she? と聞いていたのが印象的でした。同じ東アジアの国でもこんなにジェンダー意識に差があるのだなと思い、日本はどのように意識を転換して行けばいいのだろうか考える機会になりました。

4 今の目標や今後の進路について

今後、私は従来の人類最優先の路線を転換し、すべてのいきもの、自然環境との調和のとれたまちづくりに関わりたいと考えています。1月に伊那北高校の海外研修で行ったカンボジア、そして今回の留学での台湾、自分の住む日本という一般的に「先進国」、「後進国」、「発展途上国」と呼ばれる3種類の国で見たこと、感じたことを活かし自分にしかない視点や価値観を持って社会へと飛び立ち、よりこの世界をみんなに優しく豊かにするために尽力していきます。そしてそのために学生のうちに勉強で得られる知識はもちろん肌で感じることでのみ得られる知識を海外へ行くことでたくさん身につけていきたいと思っています。

5 帰国後の活動

家族や友達に経験したこと、その時思ったことを伝えるのはもちろん、高校の終始業式、またその他の発表機会での留学経験の発表、信州つばさプロジェクトの講演会での発表、伊那市中学生キャリアフェスティバル中学生実行委員会での講演などをしたいと考えています。今回の留学での経験が自分だけのものではなく、より多くの方にとって有意義なものになるように尽力していきます。



台湾の夕食スタイル（ホームステイ）



高校生との交流

コミュニケーション

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

1つは英語に対しての意識の変化です。参加前は英語に対して学校で単語や文法などの知識を習う言語という認識しかなく、苦手意識に近いものを持っていました。しかし実際自国の言語が通じない台湾に行き、英語がコミュニケーションをとるうえで欠かせない重要な手段だということを実感し、私にとって英語はコミュニケーションの幅を広げてくれるものという親近感が生まれました。

2つ目は精神面での成長です。留学中、慣れない環境や慣れない人との集団行動で精神的に辛くなった場面が多くありましたが、「せっかくだから楽しもう」という思いで、ポジティブな言葉を口にし、参加前の自分なら避けそうなこともやってみました。そしてその中で、想像以上に充実した思い出をたくさん作ることができました。ただ当たり前のように過ごしている日常の中ではなかなか気づきませんが、自分を成長させる、幸せにするチャンスは至る所にあり、それを自分のものにできるかは自分の考え方や行動次第です。そのことに改めて気づき、もっと積極的に行動したいと思うようになりました。

2 台湾に対する理解や印象について

日本台湾交流協会で、台湾の歴史や日本との関係を学び、日本による統治時代の産業発展や、近年の日本と台湾の国際相互援助を通して親日感情が構築されているのだとわかりました。実際に現地の人との交流の中でそれは実感でき、想像以上に親切に接してくれてとても驚きました。また、スーパーやコンビニに日本の商品があちらこちらに置かれているのを見て、日本と台湾のつながりを強く感じました。

加えて、台湾の街中は良くも悪くも経済成長の影響を受けていたというのも新たな発見です。今回訪れた2つの都市はどちらも発展した中心都市でしたが、高くきれいなビルが立ち並ぶ一方で、整備されていない露店やトイレが多くあったり、街の中心から外れると閑散とした住宅街が並んでいたり、その格差は今でも印象に残っています。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

人と話をするとき、特に言語が違う相手と話をするときは、コミュニケーションを取ろうとする気持ちや姿勢を持つことが大切だということを実感しました。現地の人とほとんど英語で話しましたが、自分の英語不足や、台湾も英語圏ではないので英語力には個人差があり、思うようにコミュニケーションがとれないことが多くありました。ただそんな中でも身振り手振りを使ってどうにか伝えようと頑張ったり、相手の目を見る、相槌を打つなど聞く時の姿勢も心がけました。それが相手にどう伝わったかは分かりませんが、私は、日本語を勉強中のホストファミリーが、一生懸命知っている日本語で話してくれた時とてもうれしかったのを覚えています。

ただ、やはり共通言語である英語に自信がないと自然とコミュニケーションも自信がなくなってしまうことも実感しました。まずは「伝えよう」「理解しよう」と思うことが大切で、そこから始まるコミュニケーションがより充実したものになるように英語力を高めたいと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

進路やなりたい職業は具体的に決まっていますが、異文化理解や日本の良さを広げている人物になっていたいと思います。台湾での1週間で日本との共通点、相違点を発見し、初めて気づいた日本の良さや、日本という国を客観的に見る機会が多くありました。また台湾は日本が好き、日本語を勉強しているという人がたくさんいて、とてもうれしかったのを覚えています。そういった人たちにもっと日本の文化や日本語を教えること、また少しでも多くの人に日本に興味を持ってもらうこと、これが今の私のやりたいことです。そしてそのためには、私自身が日本の文化や歴史、言語について理解を深めること、それと同時に日本を取り巻く世界のことにしてもっと知るべきだと思っています。また、外国人と関わるには英語が必要不可欠なので、基礎知識を固め直し、リスニングやスピーキングにも力を入れていきたいです。

5 帰国後の活動

新聞の意見投稿欄にこの留学体験から得たものや自分の考えを書いて投稿すること、学校で留学報告として学年に向けプレゼンテーションをすることで、周りの人に発信しようと考えています。また、留学や海外に興味のある人や、地域に住んでいる在日外国人が集まって交流できるようなコミュニティに参加したり、自分で作ってみたいなども思っています。



すぐく親切だった
台湾の高校生との交流



1週間で6回飲んだ
本場のタピオカ

ひとそれぞれの日常

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前と参加後の違いの1つ目は、英語に対する考え方だと思う。台湾の高校生の使う英語は、私達が習う複雑な文法のものばかりではなく、相手に言いたいことが伝わりやすい英語だった。高校生との交流の時に参加した授業では、英語のみが使われていて、普段の授業でも、英語だけの時があると聞いた。日本の自分たちも、英語を学ぶのなら、これから先、英語を使う人と交流する時に、相手も自分も分かりやすくコミュニケーションが取れる英語の使い方を学ぶべきなのかもしれないと思うようになった。

2つ目は、もっと自分の興味のある事には積極的に挑戦してみたいと思うようになったことだ。実際に台湾に行くまでは、不安な事が多かったが、あちらに着くとたくさんの体験があり、心配をしている暇は無かった。台湾の事が今までよく分からなかったから不安だったのだろうと思う。だから、自分から挑戦することは、学べる事がたくさんあるから怖がらなくてもいいんだと思えるようになった。

2 台湾に対する理解や印象について

台湾についてはすごく日本が好きで、という印象が大きかったが、よく考えると台湾は日本に支配されていた国だから、日本のことを好きな国という印象は日本人の勝手なものかと思ったが、台湾に行って、歴史や文化を知ると、支配されていた時代に日本人が作った、台湾の人の生活を良くするものもあり、悪い感情だけ持っているのではないと分かった。近い国だけれど生活には違いが多く、自分が驚いたことはあまり家で食事をしないということだった。だから、夜市が有名になったのかもしないと思ひ、日常の生活とその国の文化は深く繋がっているんだと実感できた。

また、知らない国の人は怖いと思っていたけれど、どこへ行っても交流できた学生たちはもちろん、お店の人や、街なかの人も優しくてあたたかい国だなと思った。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

高校生と、どんな会話をすれば良いだろうと心配だったけれど、一緒に行動してくれた高校生は、自分が好きな日本のアニメが好きで、一緒にそれについての会話ができて、驚いた。ホームステイでは、子供だけで夕食を食べに行くことになり、バスや地下鉄などを乗り継いでお店まで行った。自分にとって、夜遅くに遠くまで出かけることは経験がなくて心配だったけれど、一緒に行動していた高校生にとっては日常のようで、やっぱり生活が日本とは違うのか、と体験できた。

別の高校で交流した高校生とは、授業に参加した後、淡水の街を一緒に巡ることになった。どんなものがあるのか、どんな食べ物が美味しいか教えてもらうのは楽しくて、もしも地元で自分のように海外の子が来たら、こんな風に話したら楽しいだろうなと思った。違う国に暮らす、同じ年の子と交流できて、楽しかったと思ったが、台湾には徴兵制があるから、仲良くなった男の子もいつか軍隊に行かなくてはいけないのか、と思うと日本との大きな違いを感じたのと、将来そんなものが必要ない平和が、台湾にも訪れてほしいと思った。

4 今の目標や今後の進路について

自分は将来、教職につきたいと考えていた。その気持ちは変わらないが、今後進学していく先で、学びたいことを学べるチャンスがあるのだから、日本以外にも視野を広げて学んだり、台湾だけではなく他の国にも行って、その場所の生き方を体験できるようになりたいと思った。その経験を、多くの学生などに伝えられたら、きっとその輪が広がって、もっと日本のことも知ってみたいと思う人が増えると思う。

まずは、自分が思いきり楽しんで、知りたいと思えることを見つけて、伝えたいと思ったことを人に伝えられるようになるのが、今の目標かもしれない。

5 帰国後の活動

まだ、具体的な計画はできていないが自分の高校内で、今回の研修の内容をまとめて紹介できたらいいなと考えている。また、InstagramなどのSNSを活かして、気軽に今回の体験の感想などを見てもらって、見た人も行ってみたいと思えるような伝え方をしたいと思っている。台湾の高校生の生活は日本の私たちと、似ているようでびっくりするぐらい違うところもあったから、知ってもらいたい。



あたたかい人と料理



目に入るもの全てワクワク

台湾を知る。

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

台湾は親日だと聞いたことがあったが、高雄の日台交流協会の方の話で昔日本による台湾への統治をしていた過去があることを知りなぜ親日と言われているのか疑問になった。実際は全てが悪いことではなかったとわかったが私が一番印象に残ったある台湾人の言葉で「日本人は誤りもしたが良いこともした。」という言葉があり、その統治の中で台湾の人たちは良い思いだけでは無く反発もしていた時もあったと理解しなければならなかったと思った。

最近の台湾と日本の関係は台湾で 921 地震と呼ばれる大地震が起こった際、日本の国際緊急救助隊がその日の内に台湾入りをしたり、逆に東日本大震災の時には台湾から義援金や物資の供与が行われたと聞き、日本では台湾との歴史をあまり学ばないのでこういったプロジェクトで知ることができたり交流することができたりして良かったと思った。

2 台湾に対する理解や印象について

SDGs の観点から事前に調べていたが、国連に入ることのできない台湾は独自の政策をしているという事を知った。交流協会の方やガイドさんの話を聞くとジェンダー平等の法律があったり台湾の総統も中華圏初の女性総統で女性の社会での活躍の場が広がっていたりバイクの使用量が多い為排気を吸収できる木が多かったり、逆に学校の校庭は土ではないためトラックなどで処分する時には大量の CO₂ が出てしまうなどのデメリットがあることがわかった。私が特に驚いたのがおかわりを残してしまうと罰金というものだ。これはむやみにおかわりをして食べきれなくなり捨ててしまうというように無くしフードロス削減に効果的な取組だと思った。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

中国文化大学では消費者行為について学ぶ授業に参加した。授業は全て英語で様々な国の人が授業を受けていた。ホームステイでは台湾の家庭は外で食べに行く事が多く家で食べることは珍しいと聞いていたが、私が行った家庭では夜は友達や親戚と一緒にバーベキューをしたり朝ご飯を作ってくれたりした。

台北にある淡水商工職業学校には日本語部があり日本語を話せる人も多かった。屋台の人やお年寄りは特に日本語を話せる人が多い印象だった。淡水商工の日本語部の生徒に部活では普段どんな活動をしているのか聞いてみたところ、日本料理を作ったり日本の文化に触れたり文法の勉強と文章を作る練習をすることを主にやるそうで、本格的な授業のようなことを部活動でやることで特に違和感なく日本語を話せるようになっているのはすごいことだと思った。そこで 2 か国語が話せる人が多い台湾の教育は日本と何が違うのか気になった。

4 今の目標や今後の進路について

私はもっと世界の色々な事を知り様々な国の人と交流してみたいので大学進学後は長期留学をしたいと思っている。今回特に感じたことは日本のアニメが本当に人気なのでさらに世界中の人にアニメの他にも日本には沢山魅力があるということを知ってほしいと強く感じた。同時に長野県の紹介をした時に長野県内のことでも自分の地域より遠い場所だと知らないことも多々あったのもっと地元のことや日本の事を調べて世界に発信して様々な国の人たちとお互いの国について話してみたいと思った。

SDGs にしても日本にはまだジェンダー平等の法律はないけれど台湾には既にあたり、他にも国ごと異なる取り組みをしていると思うのでそういった事について同世代の他の国の子たちはどんなことを思っているのか意見交換をしてみたいと思う。

5 帰国後の活動

担任やその他先生たちに留学体験報告をしたり友達にも体験を話したりした。具体的には台湾と日本の文化の違いや台湾の学生との交流内容を話し、ただ観光に行くだけでは出来ないような体験をこのつばさプロジェクトで出来たことを話した。今後は学校内でこの活動の報告をしたいし、次このプロジェクトに参加する人たちにも自分たちがした体験を伝えたいと思った。



白菜不在



九份の空

机上では得られない学び

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前と帰国後で大きな変化は特に感じていない。しかし、参加前は海外に行くことに対して、どこことなくハードルが高いと感じていたが、帰国した今、そのハードルが下がったような気がする。

参加前、私が心配していたのは言語の壁であった。しかし、実際行ってみると自分の英語は思いのほか伝わり、伝わらなかった時も、言い換えたり、写真等を用いたりすることで、伝わったこともあった。もちろん、自分の言いたいことを言葉にできず、伝えることができない悔しさや自分の英語の拙さを感じたこともあったが、コミュニケーションはなんとかかなると思った。今は、応募しようか迷っていた短期留学プログラムへの挑戦を決め、選考課題に挑戦している。

2 台湾に対する理解や印象について

「台湾といえば」と言われたら「ジェンダー平等が進んでいる国」と私は真っ先に思うだろう。日本では家事は未だに女性が行うことが多く、女性の正規労働者の割合も低い。一方、台湾の男女労働力の比は約1:1で家事を男性がやる光景も稀ではないそうだ。実際、企業で働く女性を多く見たし、私のホストファーザーは朝食の準備をし、他方、ホストマザーは7時ごろに働きに家を出ていた。

その他にも印象的だったのは、学校でのゴミの分別が細かく行われていたことだ。日本の学校では、教室にゴミ箱は基本1つしかないように思われる。しかし台湾の学校には可燃ゴミと不燃ゴミ（プラスチックゴミ）のそれぞれのゴミ箱が設置されていた。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

学校交流で出会った学生、そしてホストファミリーはみんな、とても優しくかった。私たちは熱烈に歓迎して頂いた。「日台の国と国との関係はなくとも、人と人との関係を続けていきたい」1972年、日本から蒋介石総統に宛てた親電でのこの思いは、今も変わらずにあると実感した。私自身、交流を通して台湾の友人もできたので、連絡などを通して、離れていても友人を大切にしていきたい。

また自分の通う高校の授業で、まだまだ国内外でフォーリナーへの差別があることを知った。私は、フォーリナーと自分に違いはあれども、本来両者が相手を思う気持ちをもっていることは同じなのではないか、と今回の交流を通して強く思った。しかし、何か差別や偏見等があると、両者のその気持ちはあっという間に消え、両者の間に壁を生み出してしまうのではないかと、そう感じる。だから、誰に対しても相手を思う気持ちが大切だと改めて感じた。

4 今の目標や今後の進路について

まずは身近なこととして、英語の勉強をこれからも頑張っていきたいと思う。日本を飛び出して世界と繋がるには、まず通じ合うことが一番基本になることを、身をもって学んだ。私の弱みは Listening と Speaking だと思うので、その2分野に特に注力していきたい。

また将来は国際公務員になり、SDGsの達成のために尽力していきたいと考えている。この思いは、参加前から変わっていない。このために今自分ができることとしては、もちろん日頃の学習もあるが、もうひとつ SDGs を意識して生活することだと思う。食べ物を大切にする、電気や水の無駄づかいをしない、リサイクルをする、など自分ができるところをやっていきたい。

5 帰国後の活動

私の所属する部活動の英語研究会では、今回の台湾研修の発表を行った。訪れた場所や有名な食べ物などの表面的なことだけでなく、台湾の人々の温かい行動や行って感じてきたことも交えて話したことで、海外や留学の印象をつかんでもらえたと思っている。他には、新聞の読者欄に台湾研修を通して学んだこと、考えたことを寄稿しようと考えている。



九份にて



ホストファミリーと夜市でのゲーム

台湾にもう1度行きたい

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前は台湾ではなくアメリカに行ってみたくて思っていました。なぜなら、台湾では中心として使われる言語として、台湾語や中国語が挙げられます。それに対して、アメリカの公用語は英語なので、英語の学習をする機会にもなると思ったからです。また、国の大きさや経済発展の視点から見ても、アメリカの方が歴史や観光スポットなどが多そうだと思っていたからです。

しかし、実際台湾の学生は英語がペラペラな人が多く、きれいな景色や自然、また歴史を感じられる観光スポットなどがたくさんありました。台湾に行ってみて、どんなことも自分の目で確かめて、肌で体験してみないとわからないものだと思ひに染みて感じました。また、このプロジェクトに参加したメンバーは本当に愉快で、志が高くて、たくさんのことを学び刺激をもらいました。

2 台湾に対する理解や印象について

参加前は少なからず台湾に怖い印象がありました。国としては認められていなかったり、複雑な歴史があったりするからです。しかし、台湾の人々は私たちが不安に思っていることは1ミリも気にしていませんでした。私たちと同じように、普通に暮らしていました。また、やさしくてフレンドリーな方達ばかりで、こちらが思わず申し訳ないと思ってしまうほどの歓迎をしていただきました。日本語を話せる方が本当に多く、日本のことが大好きで、日本を訪れることが夢だとおっしゃってくださった方が何人もいました。そして、日本との歴史的な深い関わりがあることも、今回現地に行ってみてわかりました。現地を訪れて、自分が想像していた台湾という国とは、まるで正反対で衝撃を受けました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

私がまず驚かされたのは、台湾の学生の英語力の高さです。大半の学生が英語を流暢に話すことができていました。その中で私の英語では伝わらないことが多く、悔しさを感じたのと同時に、恥ずかしいと感じました。この先の世界では英語が共通言語として使われていくことが予想される中で、英語が喋れるということは言語の隔たりなくコミュニケーションがとれることにつながります。英語の重要性は以前からわかっていたことでしたが、同年代の外国の学生の英語力の高さを知って、さらに英語の勉強に力を入れていきたいと思いました。

また、台湾の学生と日本の学生の違いを現地の日本人の方に聞いたときに、台湾の学生はみんなが積極的であるとおっしゃっていました。実際、台湾で授業を受けてみて、先生が授業をしているのではなく先生と生徒がコミュニケーションをとり、生徒が自由に発言しているのが印象的でした。私は、間違えることを恐れて発言をすることができていませんでしたが、チャレンジしてみようという気持ちになることができました。

4 今の目標や今後の進路について

私は、陸上競技の長距離を小学校4年生から続けてきました。昔からの目標は、全国の舞台で勝負をすることです。中学校の時は全中に出場することができませんでした。高校では憧れの舞台であるインターハイに出場して、決勝のステージに立つことを目標にしています。このプロジェクトで台湾のいろいろな学生さんたちと交流させてもらい、たくさんのお話をすることができました。その中で私は、好きなこと、やりたいことを好きなだけやることができる恵まれた環境にあることを感じました。1人の学生さんは日本のことが大好きで、独学で日本語を学んでいましたが、経済的な事情で日本に行くことは叶わないと話してくれました。陸上を続けられていること、生活できていることなど、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前前にできることに感謝して、目標に向かって毎日練習を続けていきたいです。

5 帰国後の活動

学校の始業式や終業式などで、台湾での体験や感じたことを話すことを考えています。私の周りにも、海外や留学に興味のある友達がたくさんいます。その人の背中を押してあげられるような話をして、素敵な思い出を作ってくれた台湾の方々に感謝の思いを伝えたいです。また、机に向かって勉強することだけが学びではなく、外に出て自分の目で確かめることが1番の勉強になることも伝えられたらと思っています。



仲良くなった学生さんたちと



英語の授業で

自分自身に向き合うきっかけになった7日間

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は初対面の人とのコミュニケーションが苦手で、自分の思いを相手に伝えることができていませんでした。しかし、今回このプロジェクトに参加して、初対面の人でも自分の思いを発信することはとても大切だということを切に実感し、そのことを意識するようになりました。海外に限ったことではなく、日本でも自己主張を大切にしていきたいと思いました。

また、積極的にコミュニケーションをとることで相手との良い関係を築くことができるということを感じました。受け身になってしまうとコミュニケーションは続かなかったり、相手からの見られ方がネガティブなものになったりしてしまいます。私は、積極的にコミュニケーションをとることを意識して7日間過ごしました。その7日間で、もっとコミュニケーション力を上げないといけないと実感しました。

2 台湾に対する理解や印象について

台湾は昔、日本が占領していたという辛い歴史があり、台湾の人たちは日本人に対して悪い印象を抱いていると思っていましたが、日本人を歓迎してくれるなど、優しくて温かみを感じました。お店の方に、日本人だと言ったらサービスをしていただいたり、町行く人に声をかけられ、お話をしたりと優しさを身近に感じることができました。

日本台湾交流協会の方の話を聞き、日本と台湾は震災時には互いに助け合いながら、強い絆で結ばれているということを改めて実感し、これからもこの関係を維持していくことが大切だと思いました。お話の中で、「日本は良いこともしたし、悪いこともした。」という言葉が私にとってとても印象に残りました。台湾の歴史や国際情勢、日本との関係について深く学んでいきたいと思うきっかけになりました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

台湾の高校生と会話を交わしたとき、母国語ではない英語を流暢に話していたことに驚き、日本の英語教育は遅れているということを感じました。私は話していることを聞き取り、理解することに時間がかかってしまいました。また、自分の言いたいことをうまく伝えることができませんでした。しかし、高校生は私が理解しやすいようにゆっくり話してくれたり、私の言いたいことを汲み取って確認してくれたり、優しくサポートしてくれました。そういった体験を通して、台湾の方々の優しさと英語力の高さを身近に実感しました。また、日本の英語教育について知りたいと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

私は高校生との交流や B&S で、英語で自分の思いを伝えることに苦労したので、英語でのコミュニケーション能力を高めようと思いました。今回の交流では、自分の意思をしっかりと伝えることがいかに大切かということを実感させられました。

私は英語でのコミュニケーションが苦手で、内向的になってしまい、交流などで自分の思いが伝えられなかったり、なかなかコミュニケーションが続かなかったりしました。そのことは私にとって、とても悔しいことでした。それなので、このことを1つの課題として捉え、自分の意思が英語で伝えられ、自分からコミュニケーションができるように努力していきたいと思います。

5 帰国後の活動

今回の留学体験は、学校内でプレゼンをして広めたいと思います。体験をしたことで、変わった自分のことに重点を置いて話したいと考えています。私は今回の体験で、台湾のことについて深く学んだり、自分をもっと成長させたいと思うようになりました。それなので、留学をすることで新たな自分を見出すことができるということを広めたいと考えています。



高雄市立前鎮高級中学の皆さんと



中国文化大学の学生との B&S プログラム

学びの豊富な初留学 in 台湾

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は、以前から留学に興味があり長期留学の準備になればと思い、この信州つばさプロジェクトに応募させていただきました。プロジェクトに参加できる事が分かってからは、コミュニケーションにおいての英語力を高めて来ました。しかし実際に行ってみると、咄嗟の会話を聞き取ることが出来なかったり、言いたいことが上手く伝わらなかったりして言語の壁を感じ、もどかしい場面が多くありました。そのため帰国後は日常生活でよく使うフレーズや単語などを中心に英会話に向けた勉強に力を入れています。

参加前の自分はわからない部分や理解しきれていない部分がある場合でも自ら質問せず、他人の質問に頼っていました。今回のプロジェクトを通して自ら進んで質問や発言をしないと、自分が後々大変になることやさらに理解できない部分が増えてしまう事に気づかされました。

また、コミュニケーションにおいても英語でどう伝えればいいのか分からなくても、とにかく何か話してみないと何も伝えることができないと気づきました。そして、わからないことを質問しても、拙い英語を話してもしっかりとこちらの言うことに耳を傾け受け答えをしてくれるとわかり、何事においてもまずは挑戦してみる事の大切さを感じることができました。

今回のプロジェクトを通しての学びを活かし、帰国後は自ら積極的に質問・発言を行い自立性・自主性を高められるよう心がけています。

2 台湾に対する理解や印象について

台湾へ向かう前から台湾では親日の方が多いと聞いていました。実際に台湾で訪れた先々でも「日本から来たの?」と日本語で話しかけてくださる方もいらっしゃって、多くの方が日本に対してポジティブな印象を持っている方が多いと実感しました。

また、2日目の公益社団法人日本交流協会業務および台湾を巡る国際情勢についての講話を聞かせていただいた日本台湾交流協会高雄事務所では、台湾の首相に女性の方が就任していたり、ジェンダーに対する関心が高かったりと日本より多様性社会において進んでいる部分も多いと感じました。

そして、日本と台湾の国際関係についての講話では、台湾と交易・国交を行う難しさや、国際関係の複雑さを学ぶことができ、これからの国際交流における課題や難点を理解することのできるとても貴重な機会となりました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

今回交流を通して1番印象に残っているのは、台湾の学生の皆さんの物事に対する意欲の高さです。授業中は積極的に発言し、より多くの意見を共有することで多面的・多角的な考え方や思考につなげていることを感じました。また、コミュニケーション面においても英語の単語や文法がわからない場合でも黙り込んでしまうのではなく、とにかく話してみようという姿が印象的でした。

日本の学生は少しでも自信が無い部分やわからない部分があるとミスを恐れ、恐縮して黙ってしまう人が多いですが、交流を通して何事にもトライする台湾の学生のように自主性・積極性を高めて思考を広げていくことの大切さを学ぶことが出来ました。

4 今の目標や今後の進路について

私の将来の夢は国際社会に関わる仕事に就くことで、これから多くの国へ足を運びその先々でその国の現状や抱えている問題、問題解決に向け各国が取り組んでいることを学びたいと考えています。

今後の進路については、2年次に1年間の長期留学を予定しています。この留学では現地の様子を直接肌で感じ、将来へ向けての視野を広げると共に、語学力やコミュニケーション能力を身につけたいと考えています。そして、その場での経験や知識を活かし大学や大学卒業後の進路を導き、最終的な夢の実現に繋がっていきたいと考えています。

5 帰国後の活動

SNSでの発信を積極的に行い、より多くの人に活動の内容や活動を通して学んだことを知ってもらうことで、次年度のプロジェクトに多くの人に興味関心を持って貰えるようにしたいと考えています。また、学校でも部活などで活動報告や活動を通して考えたことを発信し、多くの人が留学に興味を持って貰えるような活動を通して行いたいと考えています。



企業視察でのVR体験



B & Sでの台北市内観光

近くの国から学んでいきたい

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

海外と言ってもそれは一つの言葉の区切りに過ぎませんが、そのように区切られているのは私の住んでいる国の文化とは異なっているからだとは思っています。それを踏まえて日本と同じアジア圏であり、一番近くにある国「台湾」では、日本とどのように文化の違いがあるか知りたくて、今回このプロジェクトに参加しました。

行く前にインターネットで調べましたが実際に行ってみると空気から違い、食やトイレに対する姿勢など日常生活も想像していたより大きな違いがありました。特に滞在中、紙を流せないトイレもあり、ゴミ箱に捨てなければいけません。日本にいたときの癖で紙をトイレに流しそうになったりと、今まで日本では当たり前に行っていた行動が海外では異なることを考えないといけないという事も実感しました。私は違う立場から考えることの大切さも考えながら過ごしていきたいと思いました。

2 台湾に対する理解や印象について

私は台湾と日本が災害時にはお互いに支援を行なっているが正式な外交関係がないことに驚きがありました。

台湾の町を歩いてみると日本の商品や企業が沢山あったり、日本の番組やアニメをテレビで放送していたりして台湾に親しみを感じました。また、お店に入ったときには、たとえば台湾語や英語が上手く話せなくても日本語が通じる店が多くあり、海外旅行が初めての人にもってこいの国だと思いました。

台湾について事前に調べていたため空港からの匂いが日本とは違うと知っていましたが、本当にその通り扉をぐり抜けるごとに日本とは違う空気の匂いで「私は今、台湾に来ている」と実感することが出来ました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

自分は人見知りする方で英語でのコミュニケーションにも慣れていないため、ホームステイ先で話しかけてくれても会話を聞き取るのに精一杯だったので「yes」や「okay」などの簡単な単語でしか言葉を返せず、淡水の学生さんとの交流でも同じ理由であまりコミュニケーションをすることができませんでした。しかし、ホームステイ先の方と一緒に菓子作りをすることで、言葉の壁があっても一緒に楽しむことが出来たり、淡水の学生とお出かけをした時にお互い犬が好きだという共通点を見つけたことで、翻訳機を通した形であったものの沢山お話しして仲良くなれたりすることが出来ました。このことから、例えば国が違ってもきっかけがあれば仲良くなれるんだなと感じました。

4 今の目標や今後の進路について

今回の留学にて日本とは違う文化に直接触れられた事と外国人と直接交流できたことで、今までインターネットを通じて想像してきたことと大きく違い、実際に体験して学ぶ大切さに気がつくことが出来ました。しかし今回の留学では自分の英語力が足りなかった為、声に出して会話をすることが少なく、せっかく現地におもむき直接話している意味がなくなってしまったと思いました。そのために学校で行われている授業だけでなく日常の中でこの時はこんな風に英語を話さだろうと考えて生活し、英語に慣れ、ALTの先生を始めとする日本に来ている外国人と英語でのコミュニケーションを取れるようにしていきたいです。そして、今回のことをきっかけにまた日本から出てその国について現地の人から直接学んでいきたいです。

5 帰国後の活動

台湾で学んできた日本との環境に対する比較やSDGsへの取り組みを意見文として書き、本校で行っている意見発表会にて発表を行い、隣国が行っている対策について伝えていきたいです。また、自分の身の周りから留学で体験して良かったことや日本では学べない留学の楽しさなどを伝えていき、海外留学に対する興味を持ってもらえばいいなと思います。



飛行機の中からみた高雄



目が離せない行進

自分にとって転機となった留学

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前から私は海外留学を絶対したいと強く思っていました。理由は、海外の人たちと英語でコミュニケーションをしたいからと、その国の特色や魅力を自分の肌で感じたいと思ったからです。実際、台湾に行ってみて、台湾の温かな親切さについていい印象を抱きました。また、自分から積極的に会話することで、お互いの共通な趣味やお互いの国についてのことなど沢山コミュニケーションができたこと、美味しい食べ物を食べられたり、日本に導入されていないバーチャル映像とアトラクションを融合させた大型体感飛行エンターテインメントを体験したり、とても貴重な経験をする事ができました。帰国後、これまで学んだ色々な分野を通じて、さらに興味が深まり将来の仕事にも役立てたいと思うようになりました。

2 台湾に対する理解や印象について

参加前に、台湾に関する本を購入し調べ学習をしていたら、日本と台湾は友好関係にあることや、台湾は雪が降らないことから台湾の人は日本は雪があって羨ましいと思っているということを知りました。そのようなことから、台湾の人は日本の素晴らしい所をよくみているなと思い、私も台湾の素晴らしい所をより多く見つけたいと感じました。私は高校の修学旅行や今回の信州つばさプロジェクトの二度の経験を通じて、台湾では外食スタイルということに気づき、毎日屋台の食べ物を食べました。日本では逆に外食より家庭料理をすることが一番良いとほとんどの人が思っているため、毎日外食を体験したこととても特別に感じました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

高校生との交流では、主に体験授業をしました。私たちの普段との授業スタイルとほとんど変わらなかったです。B&S では、それぞれの学生さん達のおすすめの場所に連れてってもらいました。その中でびっくりしたことは、プリクラです。台湾のプリクラは、撮る前に被り物を選んでプリクラを撮るそうです。日本は何も被り物もせずに撮影するので、その国ならではの風習を知ることができて良かったです。ホームステイでは、一日だけの体験でしたが、その日の夜はとても暑かったので、ホストファミリーが水を支給してくれてとてもありがたかったです。また夜にも関わらず、外からはすごく賑やかな声が聞こえてきてびっくりしたのですが、その国ならではの文化的背景なのかなと思いました。

4 今回の目標や今後の進路について

私は、高校の修学旅行や今回の信州つばさプロジェクトを通じて、将来、台湾に関する事を研究しつつ、日本から来る外国人に対して困り事はないかと支援する仕事をしたいと思っています。さまざまな国籍を持つ人達と話すために、今自分にできることがあるとしたら、英語とは別の言語として中国語の勉強をすることだと思います。また、まだまだ知らない台湾について調べ学習を継続したいと思っています。一度も台湾に行ったことのない日本人に台湾について紹介することもしたいと思っています。学ぶこと以外にも違う面で自分から行動に移すことを大事にしたいと思っています。

5 帰国後の活動

帰国後、始業式で全校の皆さんに向けて報告発表をしたり、今年の二学年修学旅行も台湾ということで、代表として去年の修学旅行や信州つばさプロジェクトの経験から学んだことを二学年に発表したりしました。そのような機会を設けたことで、ある一部の子は調べ学習をしていると聞き、台湾に関心を持ってくれたのだと思ってとても嬉しかったです。そのような出来事を励みにし、今度入試に向けて、自分のやりたいことをこれまでの経験と結びつけてアピールすることを頑張っていきたいです。



ホストファミリーの子と友達



淡水職業学校の子と初プリクラ

留学の楽しさを知った初めての留学

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は小さい頃から家族で日本一周を目標に日本各地に行っており、その旅行を通して日本の中でも自分の地元との違いを感じ、その違いを体験することが私にとっての醍醐味になっていた。そのため今回の留学で私は日本から離れ、未知の土地に足を踏み入れることにワクワクしていた。

海外に行ったら多くの人と話したいと意気込んでいたが、帰国した今感じていることは、自分は思っているほど英語が話せないということだ。台湾では相手の話を聞き取れても自分が言いたいことを相手に伝えることができなかった。さらに翻訳機能を使って伝えても、会話を続けさせることが難しかった。一緒に行った同じ班の子や、台湾の学生たちは上手にコミュニケーションをとっており、自分の気持ちを自分の言葉で相手に伝えたいという目標ができた。コミュニケーションの手段はいくらでもあるが、私はやはり自分の言葉で相手と会話することに意味があると感じるし、なにより自分の気持ちが伝わった時の喜びは大きい。台湾での生活で自分の英語が伝わった時や、会話ができた時はとても嬉しく、その気持ちをもっと味わいたいと思った。

2 台湾に対する理解や印象について

台湾は親日の国の一つであることは知っていたが、事前学習で日本が台湾を統治していた時代があったことを知り、なぜ台湾の方たちは日本をよく思っているのか疑問が生まれた。日本は台湾のインフラ整備などを行い、台湾の発展に大きく関わった国であること、また台湾は半導体などの産業も発展し続け、世界と戦える国であることを知り、自分の台湾に対する印象がガラッと変わった。留学に行くとお店の商品は日本の物が多くあり、日本が受け入れられていることを実感した。台湾の学生たちは、英語はもちろん日本語も堪能で、日本が台湾に劣っている部分も見えた。また、歩いていると大通りなどは交通量も多く明るいが、路地に入ると一気に空気が変わったような薄暗い雰囲気、台湾は所得格差の差がまだあると感じた。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

台湾の学生と過ごして、自分が思っているほど英語が話せないと感じた。英語で会話をするということの難しさ、自分の伝えたいことが伝わらないもどかしさを痛感した。しかし、台湾の学生と一緒にいった仲間たちは自分の知っている英語で積極的に話しかけており、文法も関係なく自分の知識で話しかけていくことが大切だと思った。また、B&Sで学生に「言ってくれないとわからないよ、やりたいことがあったら何でも言って」と言われたことで、自分の事をわかってくれている人は一人もいないから、受け身にならず自分から意思表示をしないとダメだと感じた。

4 今の目標や今後の進路について

今の目標は自分の気持ちを英語で相手に伝えられるようになることだ。今回の留学を通して自分の英語力を知るとともに、英語で相手に伝える練習の大切さを学んだ。そのため、多くの国へ留学し実践的な英語力を身に付けたい。将来の夢は決まっていなくて多くの人と関わりたいと思っている。また、今回台湾へ行って日本の良さもたくさん感じることで、学んだことを地元で生かしたいと思った。例えば飯田の名物を売ったりオススメスポットを巡ったりするイベントを飯田に住む外国人と企画・実行することで、地元の方や観光客、飯田に住む外国人も飯田の良さを知ることができると思う。

5 帰国後の活動

つばさプロジェクトのカンボジアコースに参加した同級生と一緒に学校で先生方や生徒に今回の留学で感じ学んだことを伝えて、私と同じように良い経験をする人が増えてほしい。また、日本を出て気付いた日本

の良さを伝えることで、留学は日本を知る機会でもあると伝えたい。英語ができない私でもたくさんの楽しい経験をしたことを話すことで、英語が不安で留学をためらっている人に勇気を与えるとともに、留学に興味を持ってくれる人を少しでも増やしたい。



台湾の学生と初めての今川焼づくり



九份にて